

さかいだに

- 7

6

5

4

3

2

1

(龍 野)

今回の調査地点は、谷の

中を南流する大津茂川の支流である太市川の横であり、検出した流路も同川の旧河

木簡は、この旧河道の最上層のシルト層から出土した。旧河道埋

没後は、河道と直交する方向に数条の溝が設けられており、一〇世紀頃の須恵器碗が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1)

•

□	嶋力 人等力
□	
□	
□	
□	
□	
□	

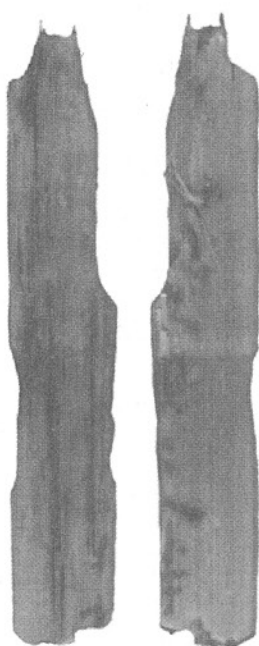
〔嶋力〕人等力

1111

(133) \times (22) \times 5 081

右辺がほぼ原形を保つが、上下は折損、左辺も割れている。右辺最下端は斜めに切り込まれた状態になっており、切り込みの痕跡の可能性もある。文字は画面に記されているが、内容は判然としない。

なお、木簡の釈読にあたっては、奈良国立文化財研究所の古尾谷知浩氏、山下信一郎氏、渡辺晃宏氏のご教示を得た。（別府洋二）



(赤外線テレビカメラ
画像による)